
ダンナ短編集

愁水

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ダンナ短編集

【Nコード】

N6397Z

【作者名】

愁水

【あらすじ】

短いお話が続くので、短編集にしました。

……こんな毎日、飽きません。

——— ともや、喧嘩の原因も忘れる些細なコト。

あの日も、私が一方的にダンナにマシンガン文句を言っていた。
相変わらず、ダンナは余裕のスル！。

私「——— このハゲタコがーっ！！」

するとダンナが、珍しくずっと振り向いて、

ダンナ「タコはやめて！！ イカにして！！」

……。

……。

この言葉に、一気に怒りのボルテージはダウン。

脱力した私はこのダンナの言葉に、一言も言い返せなかった。

……。

あ……、ハゲは別にいいんだ……。

■ ■ ■

ある夜、私が洗面所に行くと、ダンナはお風呂に入っていた。

既に出ようとしているのか、フェイスタオルで身体や頭をガシガシ拭いているのが、若干透けているお風呂の扉から見える。すると、

ダンナ「いまのうちに髪の毛拭いておけば、ドラちゃん使わなくて済むしな」

独り言が聞こえた。

ドラちゃん……？

ドライヤーのことか？

……。

——はっ！！

それは、バスタオルのコトであつた。

今日も我が家のバスタオルの柄は、ドラえもんである。

■ ■ ■

私は大のゲーム好きである。

付き合っていた頃から、ウチにダンナを呼んで、一緒にピコピコとゲームをしたりしていた。

結婚した今も、家事や仕事の合間を見計らい、PSS3やPSPに熱中。

そんなある日、私が寝転びながらゲームをしていると、

ダンナ「そういえば最近、マイティボンジャックで遊んでるの？」

と、聞いてきた。

え？

マイティボンジャック？ 何それっ！？ そんなの私、持ってたっけ！？

混乱している私の顔を見ながら、ほら、あれだよねと、手振りであれようとするダンナ。

ダンナ「オレンジ色の身体で鼻が長くて、あ！ なひょーんって言うヤツ」

なひょ……………？

……………。

……………え、まさか。

クラッシュバンディクーのことでした。

……………もうホント、いい加減にしてよ。

（後書き）

お読みいただき、ありがとうございました（*^|^*）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6397z/>

ダンナ短編集

2011年12月21日15時46分発行